

かいはつ



小中交流会
美川中・男川小
山中小・美合小

岡崎市特殊教育推進協議会

平成5年3月3日



ありがとう

広幡小学校長

有 我 亮 介

映画館を出るとき、ありがとう、という思いで、胸がいつばいにふくらんでいました。わたしの身の回りにいるたくさんの人に、ありがとう、と言いたくなりました。ありがとう、という言葉の重さを新鮮な気持ちで受け止めました。

その映画というのは、大林宣彦監督の「ふたり」です。

今年、就学指導の仕事をしていただき、その思いがよみがえってきました。多くのお母さん、お父さんに出会い、また、文章を読ませていただき、自分なりの「ありがとう」を見つけたように思っています。

「親の姿勢が変わると、子どももやはり変わるものなのではないでしょうか。彼の表情が明るくなったように思います。ここらで、また一つ羽ばたいてみたくなりました」

「今は私自身を成長させてくれるすばらしい子なのだ感謝し、素直に受け取りたいです」

「障害を望んで生まれた子は一人もいません。世の中の人が障害者に対して、特別な目で見ないで、自然に手を貸してあげられる人ばかりだったらどんなにすばらしいことでしょう。私もまだそんな人間にはなれませんが、そんな気持ちにさせてくれたM子に「ありがとう」といいたいです」

私は今まで、ありがとう、という気持ちと言葉をどれだけの重みで、どれだけの回数、言うことができたであろうか。

（引用文は、ひまわり会発行『ひまわり新聞』から）

時計の針がもうすでに午前九時を過ぎ、一時間目の授業も終わろうとする頃、外の戸が勢いよくカラッと開きます。すかさず席を立って見に行くS君、それは四人の仲間のうちの一人、K君が登校して来たところでした。最初の頃は私も出迎えています。今ではその役をすっかりS君に任せてしまいました。(というより、私がいづも 歩遅れでしまうのです。)

S君はよく気がつく、心のやさしい子なのです。誰かが散髪してくると、まっ先に気がついて、「きれい、きれい。」と、少し舌足らずな言い方で、その子の頭をなでてあげるのです。(あつ、しまった。また先を越された。)と思いつながら、「ほんとうに、きれいだね。かっこいい。」と、S君の倍も触らせてもらう私なのです。

このS君も二年前の入学した頃には、席にもつかず、泣いて、「もう、かえるー。」と、連発し、ラントセルさえ手放さずに、いつでも帰るぞという体勢でした。間もなく、S君にはすごい特技のあることが分かりました。それは掃除の仕方がとても上手なことです。ほうきの持ち方、掃き方、ちりどりの使い方など見事なものです。私が出る輩などありません。掃除の時間になると、喜んで行い、学校にいる楽しい時間ができま

S君に教えられて

岡崎小 鴨下淑子

間がどんどん増えていきました。この二年間のS君の成長にはめざましいものがあります。

「こわい、こわい。」という遊具にも、私に必死にしがみついたりしました。何回も挑戦した今では、「ここまでおいで。」と、得意顔で手を振ってくれるのです。楽しい楽しい遊具になりました。



『かさこじぞう』の劇化

学校にいた。楽しい時間。給食当番も大好きでした。もちろん給食も大好きで、S君にとつて楽しい時間を作りました。この二年間の記録を留める文集を作りました。S君の書いた文を読んできくと、教えられることばかりで、私の大切な文集になりました。

「おいしい手打ちうどんを作ろう」でも、一人で小麦粉を量り、一人でこね、延ばしました。そして、私と二人で細く切りました。一生懸命に包丁を持つS君の手がほかほか温かく伝わってきました。

私の手を添えなくても、もう字が書けるようになったので、この二年間の記録を留める文集を作りました。S君の書いた文を読んできくと、教えられることばかりで、私の大切な文集になりました。

「僕も組に入らなければよかったです。」ある時、しみじみK君は言いました。私達は数多くの行事や交流学習を遊して活躍する場を与え、自信を身につけさせてきた。しかし学校や社会の中で萎縮してしまう彼ら、そして他学級との目に見えない溝、彼の言葉はまるで私達に大きな問題を投げかけているかのうに受け取れた。

交流学習を

通して

甲山中 西川真実

「絶対に勝たなかったけど直せばよかった。悔しかった。」と、みんなを驚かした。十組だからって手かげんをしようとする。で本気で相手をしてくれ。嬉しかった。この頃、僕は十組にいることが名義に思えた。ハンドベル演奏やリース作りなどは他のクラスではやっていない。僕は色々なことを教えてもらっている。こんないいクラスを僕はなんにもできないクラスと思っていた。多少普通クラスとは違って心は同じ、

一緒に笑い、競い合える。もう十組を離れたいなんて言わない。七組や先生達に感謝したい。」この文を読んだとき、嬉しくみあげてくるものを感じた。一年の学年集会でこの文が紹介され、「十組を特別扱いにしてはかえって傷つけてしまう。前と考えが変わった。」十組さんに親しみが湧いた。気持ちのこもった文ありがとう。しかし十組強かったよ。また、試合をやろう。」など生徒から色々な反響を貰うことができた。いい集会になった。K君もこれを読んで満足し自信をもったようであった。

今回の交流学習から、生徒同士が互いのふれ合いの中で互いが対等に向い合える関係をもち、自信を付けさせることが一番大切であると痛感した。今後更に特級学級への理解と交流の場を深めていきたい。



バンブーダンスで交流

「自主研修会」は、今回で六回目を数えることとなりました。その運営は、参加する部員の意識に任されています。今回の自主研修会は、講師陣を部員から募り開催しました。また、夜の部は、特別講師として、特殊教育部・部長の磯谷先生をお招きして、待つことができました。

特殊教育部 第6回「自主研修会」報告 葵中 武田正道

内容でした。

研修会は、その実行責任者を竜南中の大柿先生として、開催されました。参加人数は、二十名を越え、予想を上回る盛況でした。昼の部は、四人の講師による講座が持たれました。初めは、城北中の安藤先生による「レク指導講座」でした。児童・生徒を楽しく



こねる人 ながめる人

る。酒井先生にま

つわるお話をされました。先生の話されるいくつかのエピソードは、「教師としてあるべき姿」を映し出すものでした。最後に、自主研修の理想の姿をそれとなく導かれる

活動させるためのゲーム指導がその内容でした。参加教師全員が安藤講師のもと、ひとつになってチームに取り組む講座でした。「研修」は、堅いものという先入観を破り、雰囲気をごませるものでした。

第二の講座は、六ッ美北中の蜂須賀先生が「教科指導主義」として話されました。「児童・生徒の興味を引き出しなから、授業でどのような内容を取り上げていくのか。」長年の経験の中から話される生の声は、現場教師にとってうなずくことが多いものでした。生活単元に系統性を持たせること、教科に生活を取り入れることの難しさをあらためて感じさせてくれました。

先生による「認知・行動・脳」という講座でした。木河先生は、教育・指導・学習を脳のレベルで捕らえ直すということを専門で学んでみえます。講座の中身も多少実際の現場からは、離れた感がありますが、とても興味のつきない内容でした。「学習」は、「脳の構造的変化」と言い換えられます。どのような構造的変化を与えて指導していくのか、教師の大きな命題だといえます。

夜の部の講座の準備として、岩津中の坂田先生による「究極のラーメンづくり」竜南中の大柿先生による「鍋奉行作法」などがあり、おなかも頭もいっぱいになるといいます。自主研修会となりました。最後に、係となっていたいたいた先生方に深く感謝いたします。

第二の講座は、矢作北中の木河

大熱演

学習発表会・学芸会で大熱演

▼ 大樹寺小



▲ 井田小

▼ 福岡小



学級スナップ

「きりえ展」見学

竜南中 九組・十組

自動改札機から出てくるはずのない切符をいつまでものぞき込んで待っているM男。バスの中で初めて両替ができ安心し、にっこりとしながら教師の顔を見るS男。失敗と成功を繰り返しながら、何とかたどり着いた東岡崎駅。

これは、ゆとりの時間に切り絵を行ってきて、関心が高くなった生徒たちと「岡崎きりえグループ展」を見学に行ったときの様子です。

色の美しさや切り方の工夫に驚きの声を上げていました。また、会場でのお茶やお菓子のもてなしに生徒たちは大喜びでした。



昔と今を思う

知立・竜北中学校 兼平 義文

(一)

昭和五四年から特殊教育の指導員として各学校の学級の子ども達

は今でも鮮明に覚えています。現在も「障害児教育」の理解を

求め声が續いていますが、当初は認識が浅く「市から送られてきた名簿」

に名前があるけど該当者がわかりません」という小学校からの連絡で、その夜該当する

間が一番勉強になったように思います。とでも気障な言い方ですが、特

殊教育における「教師の研修」は相談会に来てください」と言

から専門知識より、目の前にいる子どもを「よくみる」のが最も有

効な勉強だったように思います。就学指導委員会では「教育相談

会」に平均して二十五名の方々が来ていただけました。一通の「呼び

出し」とも言える通知文です。保護者の方の不安はいかばかりかと

察しました。保育園のご支援で、件の拒否もなく実施できました。

平成五年一月二二日付朝刊参照）就学指導委員会が無事終了する

ことになりました。もちろんそのほとんどの子どもを忘れてしまいました

が、とても心にひっかかる相談

る方も少なくありませんが、中には幼児期に重度の障害が出てしま

つても、明るく淡々と事実を語られる二両親がいました。また、全く利害関係のない他人の子どもを育

てている家庭が二件ありました。理由を聞くと「ほいじや、だれか

育てるの？」と八才の子供の親にしては古い過ぎたその女性たちは

市就学指導委員会の名簿にあがった子どもたちが今年から成人式

に出会います。たつた三分程度の出会いなのですが「今、どうしているのか」と思ひ出すことがあり

ます。会議では膨大な資料を基に八名ほどの子どもの就学先を次々に決定しましたが、「これでよか

つたのか」という評価が、成人となる今年から始まるような気がして不安です。

連尺小学校の同級会が昨年の八月に桑谷山荘でありました。成人式の写真を持ってきて見せてくれました。甲山中学校の同窓会でも同じように見せてくれました。私が出会った八五名の青年達の着飾った成人式の写真を見たいものだと思っています。

中学校に行ったら

矢東小 内藤 良尚

母親 内藤 幸路

小学校では、放課に、ほかのクラスのドッジボールに入れてもらって遊んだのがいい思い出です。中学校は初めてだけど、新しい友達とも仲よくしたいです。そして、友達になったら、小学校の時のように、外でいろんな事をして遊びたいと思います。それから、矢作東小を卒業していった人たちともまた会えるので、楽しみにしています。

これからも笑顔で

祝卒業



この春、新しい一歩を踏み出す子らに、幸あれ。

就職

甲山中 川田 修

母親 川田 富久代

僕は、前田シエルサービスに就職がまりました。そこで、どこまでやれるかわからないけど、できるだけ一生懸命やって会社の役に立ちたいです。

一年間は、ぜったいに自転車がかよっていききたい。けど、僕ははずつと自転車がかよって、がんばって仕事をしていきたいと思っています。ちょっと気が短かいので、気がつけたいです。

わが子の卒業に向けて

卒業おめでとう。一生懸命働いて、皆に信頼される人になってください。兄弟の多い中、末っ子として大きくすくすくと育ってくれました。本当にうれしく思います。私も苦労して育てたかいがある。これからも、のびのびと、心の広い人になってください。